



# 嬉 望

第 8 号

兵庫教育大学 学校経営コース大学院生編集部



“ひょうちゃん”は兵庫教育大学のマスコットキャラクターです。

## ●兵庫教育大学 事務局長インタビュー

新谷 喜之 事務局長のインタビューの2回目です。

### 3 長年教育行政に携わって、今の教育界に対して考えておられることをお聞かせください。

文部科学省初等中等教育局に長く籍を置き、また、地方の教育長も経験させていただきました。近年のめまぐるしい教育改革を、地方と中央の両方から見ることができました。

やはり、教育委員会に籍を置くと、教員の重要性を痛感しました。また、校長が変わると、学校が劇的に良くなるという状況も見ることができました。教員については、養成、採用、研修の一体の改革を行うべきです。教員を巡る改革は、制度が複雑に絡み合っているため、なかなか改革が進みませんでした。今回の改革に期待しています。政府の強いリーダーシップに期待しています。

それから、もう一つ。市町村の教育委員会の改革の必要性を痛感しています。地方分権で市町村教育委員会の役割が増大しているにも関わらず、市町村教員委員会は必ずしも力を持っているとはいいがたい状況です。教育長はレイマンコントロールの教育委員会を支える高度の専門的リーダーとして教育行政の専門性を磨くべきだと思います。今後、市町村教育委員会の改革が喫緊の課題だと思います。

### 4 文部科学省におられた時や教育長時代のお話もお聞かせください。

生徒指導担当だったときに、大きないじめ自殺事件があってその担当として国会対応・マスコミ対応・教育委員会対応等で寝る間もなく、本当に大変でした。若いときに苦勞をすれば、少々のはたいしたことないと思えますね。教育課程担当の課長補佐だったときは、インクルーシブ教育の流れの中で特別支援学校に加えて幼小中高の教育課程の作成に関わり、その時もやはり寝る時間がありませんでした。長期にわたり寝不足でしたが多忙感はありませんでした。やりがいと充実感がありました。当時は若かったので、今はもうそんなことはできないかもしれませんが。(笑)

千葉県富里市教育長時代は、文部科学省から来たということで最初は 11 人いた小中学校の校長先生方から拒否ではないのですが、少し距離をおかれていました。率直に意見交換することで、すぐに受け入れてもらいました。また、行政経験しかなかったので現場のことをより知りとうと思ひ、足しげく学校現場に行きました。ある時、1 日中小学校にいる機会を持ちました。朝から校門に立って挨拶をし、その後朝の健康チェックをしたり、音楽の授業にサポーターとして入れていただいたり、特別支援学級のお手伝いをしたりしました。その時の写真や子どもたちが書いてくれたメッセージは今も大切に持っています。

**子どもたちのメッセージを読ませていただくと KinKi Kids の堂本光一さんのことが書いてありますね。**

実は、彼は私の甥なのです。それを知っている先生がその小学校におられたようで、私が学校に行ったときには子どもたちがみんなそのことを知っていました。(笑) それでというわけではなかったのですが音楽の時間には「フラワー」をエレキギターで演奏しながら、子どもたちと一緒に歌ったりしました。

**子どもたちの笑顔の写真とメッセージから、楽しい雰囲気と新谷事務局長のお人柄が伝わってきますね。**

### 5 私たち学校経営コースの院生にメッセージをお願いします。

今後、学校経営、教育行政についての高度な専門性を持つリーダーが、学校現場、教育委員会において大きな役割を果たすこととなります。学校経営コースの皆様方には、本学の恵まれた環境を活かして、多くの学びを得られますよう祈念します。

**期待に応えるべく頑張ります。たくさんの貴重なお話をありがとうございました。**



前号で話題になった、今年度改善された食堂と、  
ベーカリーショップ

●課題研究において「現任教描写」がおこなわれています

現在1年次生（P1（Professional Master Grade 1）は、課題研究において、「現任教描写」をおこなっています。

これは各院生が、在籍校あるいは教育委員会について、優れた部分や課題などを洗い出し、良いところを伸ばすにはどうすればよいか、改善するにはどうすればよいか等について、詳細に分析・考察するものです。さらにそれを、2年次生も含む学校経営コースの院生と大学の先生方の前でプレゼンテーションをし、その後ディスカッションするというものです。発表者にとっては、優れた学校経営実践事例研究（2号で紹介した現2年次生の追研究）に続く、2年次生で作成する学校改善プラン（一般大学院の修士論文の代わりになるもの）へ向けた大きな取組の第2段といったところです。また、発表を聞く院生にとっては、発表者の数だけ多くの経営事例を共有して、学びを深めることができます。



●公開授業及び研究会を行いました

第4号でご案内しましたように、6月25日(土)に、公開授業及び研究会を行いました。午前中は修了生の教職大学院の学びを活かした現場における実践のパネルディスカッションの後、午後からは公開授業、ポスターセッション、須原 愛記 文部科学省高等教育局大学振興専門官(併)教職大学院係長による講演、加治佐 哲也 本学学長による講演が行われました。



公開授業においては、浅野教授による「教員のための学校組織マネジメントの実践演習A」の授業が行われました。人材管理等に関する理論の講義の後、演習が行われました。写真上は、学校経営コースの1年次生・心の教育実践コース・授業実践リーダーコースの1年次生が授業を受け、演習しているところを、来場者が自由に机間を回って見てご覧いただいているところです。写真左は、須原専門官・係長による講演の様子ですが、教員養成、資質・能力向上に関して教職大学院への期待が増していることなどが話されました。



学長講演の中では、本学が現職教員の研究・研鑽と実践的な教育研究を推進すること等を目的として新構想大学として誕生し、もともと教職大学院に近い性格を有していたこと、全国最大規模の教職大学院としての本学のミッション・役割・特徴、等々の内容でした。教職大学院に期待されていることは、すなわち私たち院生に期待されていることでもあり、改めて身が引き締まる思いでした。当日は多数の方が来場してくださいました。ありがとうございました。

●シリーズ 兵庫教育大学教職大学院の授業 ⑦

～教員のための人権教育の理論と方法A～（必修共通科目）

今回の授業紹介は、1年後期に開講されている「教員のための人権教育の理論と方法A」です。この授業では、かつてあるストレート院生（これから教員採用試験を受ける院生。同じタイトルのBの授業を受ける。）が「これまでの自分の人生の中で出会ったことのない問題を必修で学ぶ必要があるのか。」と言ったことがあるそうです。中流意識が根強く貧困への意識がないための発言であったようです。現職教員向けのAの授業では、時にはそういった一部の若者などの意識も紹介したりしながら、社会教育的なアプローチの必要性を説き、様々な立場・考え方を包み込むおおらかな考え方を必要とするソーシャル・インクルージョン（社会的包摂）の基礎理論をまず学びます。その後、同和教育の基礎論、同和教育から人権教育へ、男女共同参画社会、多文化共生社会等々について学びます。図はある院生の講義ノートからの抜粋です。

